

# 三代会長 片山俊次 三十年祭 三代会長夫人 片山コズエ 二十年祭

10月21日 世話人・宮森与一郎先生祭主のもと参拝者280名



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
本島通信編集室 R231023-1027-18  
奈良県天理市指柳町270-1  
本島詰所 〒632-0093  
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com  
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間  
【11月1日～12月31日】  
朝づとめ 午前6時45分  
夕づとめ 午後6時00分

本部員・本島大教会3代会長片山俊次30年祭と、3代会長夫人片山コズエ20年祭は10月21日午後2時より、大教会世話人・宮森与一郎先生祭主のもと、本島大教会で執り行われました。  
当日は秋光まぶしい晴天に恵まれ、秋の深まりを感じさせる中、年祭には家族、親族をはじめ、故人を知る人々、教会長夫妻、ようぼくなど280名が参列しました。

おつとめ奉仕者は午後1時15分、神殿に集合。役割の確認を行った後、午後1時30分より式前行事として祖霊殿開扉ならびに献饌を行いました。午後2時より神殿の儀。片山幹太大教会長は親神様の御前にて年祭の由を奏上したのち、十二下りてをどり、が勤められ、前半では宮森先生がてをどりを勤め下さいました。

続いて祖霊殿の儀では、宮森先生祭主のもと、祭文が奏上され、3代会長様ご夫妻の足跡を振り返り、「をや一筋」に真実を尽くして勤められたご生涯を称え、私どもも教祖140年祭へ向かう年祭活動に勇んで勤めることをお誓い申し上げました。

親神様・教祖・祖霊様礼拝後、参拝場内にスクリーンを設置し、3代会長様ご生前の音声視聴しました。これは大教会史料集成部が保管している音声記録の中でも最も古いもので、昭和36年11月、大教会創立60周年記念祭ならびに片山好造20年祭における3代会長様(当時55歳)ごあいさつ約10分間で、大教会神殿ふしんの総仕上げに向かって、自身の信仰信念を熱く訴えられる音声は、62年後の今を生きる私たちに勢いを与えられる内容でした。

その後、参拝場において参拝者全員で記念写真を撮影しました。午後6時15分より夕づとめ・お願いづとめが勤められた後、午後7時30分より講堂において宮森先生ご臨席のもと直会が催されました。

なお、年祭に先立ち当日午前9時より鶴ヶ丘墓地にて墓前祭が大教会長祭主のもと執り行われたほか、特船が21日正午見島観光港発、22日午後4時30分本島港発見島観光港行を運行しました。(続きは2頁)

## 年祭(あいさつ)

本日は本島大教会三代会長片山俊次三十年祭ならびに三代會長夫人片山コズエ二十年祭にご参拝いただき誠にありがとうございます。

この度の年祭に際し、改めてお二人の信仰姿勢について申し上げたいと思います。

私から見た俊次三代会長は、日々朝から晩まで神様の御用をしながら真柱様の思いを求め、部内教会に心を配り、信者様方の成人を願ひ、未だ陽氣ぐらしの御教を知らない人々へのい、いがけを心がけておられました。天理教少年会では少年会員が「立派なようばくに育ちます」と誓いますが、俊次会長はまさに「立派なようばく」でいらっしやいました。おたすけの上で、親神様・教祖を間近に感じながら、日々心を澄み切らせ、陽氣ぐらしを味わっておられたように思います。

次に私から見た祖母コズエ夫人は、極力表には出ず、縁の下から人様のことをいつも心配されるような方でした。二言目には「ご飯食べた？」と、いつも相手の身になって心を配っておられました。いつの日か私も祖母のようにいつも相手の身になって物事を考え、親元に帰って来られた方々に「おつかれさま」の心で、優しく声をかけられるような心配りが出来るようになりたいと思っています。

皆様もお二人への思いがそれぞれあると思います。本日はどうか、お二人のことを語り合い学び合って、その信仰姿勢を心に、教祖百四十年祭に向かって一手一つに歩ませて頂きましょう。

立教百八十六年十月二十一日

天理教本島大教会長 片山幹太

帰参者総数：280名(総務扱い)  
(海外帰参者25名、在籍者21名含む)

## タムスケジュール(10月21日)

- 6:45 朝づとめ
- 8:30 受付開始(2階ロビー)
- 8:56 墓前祭
- 11:22 宮森与一郎先生ご到着
- 13:15 おつとめ奉仕者集合
- 13:30 祖霊殿 開扉・献饌
- 14:00 神殿の儀
- 14:20 てをどり
- 15:35 祖霊殿の儀
- 16:15 三代会長様の音声視聴
- 16:30 大教会長あいさつ
- 16:40 記念写真撮影(神殿内で全員)
- 18:15 タづとめ・お願いづとめ
- 19:30 直会(講堂)
- 21:10 後片付け

## 年祭参拝順序(敬称略)

- [1] 大教会長
- [2] 片山よ志ゑ、片山かおりご家族、片山和信ご家族、片山榮
- [3] 片山勲ご家族
- [4] 片山好治ご家族
- [5] 〈親族代表〉片山孝代、藤山信広、長尾澄子、横山正次



- [6] 〈役員代表〉  
岩橋慶三、牧野道昭
- [7] 〈准役員代表〉  
吉田晴雄、高島栄造
- [8] 〈教会長代表〉  
長濱充憲、鎌田典夫、岩橋守行
- [9] 〈在籍者代表〉  
窪田靖明、永山晴明
- [10] 〈参拝者代表〉  
小野耐子、孕石正人、久尾由貴

## 直会プログラム

- 19:30 宮森与一郎先生ご入場  
乾杯・歓談
- 19:50 六甲おろし
- 20:00 和太鼓ほんじま
- 20:20 佐渡おけさ
- 20:30 九州音頭
- 20:40 本島鼓笛隊
- 20:50 一合まいた
- 21:00 本島音頭
- 21:10 直会終了(後片付け)

直会では参拝者それぞれに折詰弁当をご用意したほか、各テーブルには「さば棒寿司」と「ままかりの酢漬」が振る舞われました。「さば棒寿司」は片山俊次3代会長様の好物で、ご家族によると湿疹が出て召し上がっていたとか。このたびは鯖30匹を下ろし、棒寿司60本、300切が作られました。また「ままかりの酢漬」はハルお婆様(片山好造2代会長夫人)が生前、本島へ帰ってきた帰参者がいつでも食べられるよう、焼いたままかりを甘酢で漬けていた瀬戸内の郷土料理で、本島の親の味です。

なお年祭にあたり、記念品として各教会には書籍「真実の道」(道友社編入3巻)、帰参者には「しおり」「ハンドタオル(節におどる三年千日)」書籍「本島3代会長様との出会い(佐志信夫著)」が配布されました。

# 日々をいがけ、機を逃さぬ おたすけ、ちばの理を戴く

大教会世話人

みやもりよいちろう  
宮森与一郎先生

本日は本島大教会の立教186年秋季大祭をお勤め下さいました。この機会に参拝させて頂きましたので、少し考えますことをお話させて頂きたいと思えます。しばらくお付き合い合います。下さいますようお願いいたします。

昨日、3代会長片山俊次先生の30年祭、そしてコズエ奥様の20年祭を勤められました。私も少し思い出をお話したいと思えます。

## 人間の義理を立てず、神一条に

まだ私が30代に入った頃であります。当時青年会本部の副委員長を務めておりました。そういう関係で、俊次先生にお願いしたいことがあつたことがあります。

その当時、既によ志ゑ会長様の時代でありました。

何をお願いに行つたかと言いますと、天理高校の北寮幹事を本島から一人出して欲しいというお願いです。

本来ですと大教会長様をお願いに上がつて、そして許可を得て事を運ぶのですが、ちょっとと急を要したのであります。早く人選を決めて青年会長様にご報告しなければならぬ、というような時でした。

大教会長様は大教会へ帰つておら

れる。どうしよう、という事になつて、俊次先生にお願いに行こうと思ひ、行つたのであります。

俊次先生はお願いの筋について、しばらく黙って聞いて下さいました。そして「分かつた。そのことは上手く事が運ぶように、大教会長にも私からお願ひして、必ずさせてもらおう」と快諾をして下さつたのであります。

そしてその時、一言だけ仰つたのであります。それが今でもずっと心に残つております。その一言は、「事務屋になつたらあかんよ」でした。

その当時、俊次先生はもう本部長であります。こちらはまだぺいぺいの青年であります。お願いの筋に上がつて、本来ならばなかなかお願いできないような、本部長と青年という立場でありましたが、快諾を下さつた上で、「事務屋になつたらあかんよ」と、今さらながら思ひ出しますが、どういふことなのか。その当時は分かりませんでした。今になつて思ひますと、おさしづに

「人間の義理は要らん。人間の義理思えば神の道の理を欠くで」

とあります。また

(明治21年10月5日)

「神の道を一つも立てず、あつちの顔を眺め、こつちの顔を眺め、人間の義理を立てる。神の道とは言えようまい」(明治27年4月3日)

とおおさしづもありました。その当時、まだ30代そこそこの私にとつてみれば、こうすればこうなると、計算を立てます。本部長先生、俊次先生にお願いすればきつと上手く行く。事をうまく運ぼうと、策略を考え、そういう思案を巡らす。これを人間の義理を立ててしまふ姿だと、こういう意味だと思つたのであります。人間思案というものだと思つたのであります。

そうではなく、神一条の姿。神様の思いを一番に立てた行いが出来ているかどうか、ということ俊次先生は「事務屋になつたらあかんよ」という一言で教えて下されたのだと思つたのであります。

教祖が貧のどん底の中、やつと手にされた四合の米を、たまたま訪ねて来た者に惜しげもなくお与えになつたという話があります。

この先どうなるんだらうかとか、この米があつたらどうだらうかとか、教祖にはそういう打算がなかつたのであります。人間に知恵力でこうす

ればこうなる、ああすればああなる、これを貯めておけば将来こうなる、という思案を人間思案であると思うのであります。

昨日は俊次先生の音声を視聴しながら、この神殿がどうやって出来たのか、初めて見ました。人間思案のない姿、神一条の姿で通り切られた本島の先人たちの素晴らしい信仰を、初めて昨日知ることができて本当に良かったと思っております。それに続く本島の皆様方も、きつと先人に負けないような、そういう神一条の姿を通じて下されていると、昨日はちょっと安心しました。

### 年祭活動を歩む三つのポイント

さて昨年10月、真柱様は秋の大祭において諭達第四号をご発布下さいました。早いものでもう一年になります。

この一年どうだったかなと少し振り返ってみて下さい。真柱様が諭達で示されたその思いを少しでも実行できたかなと思われる方もおられるでしょうし、なかなか上手くいかんかったなあと思っておられる方もおいでになるかも知れません。また、「ああ忘れた」という方もおられるか

も知れませんが、今日は三つのお願いをしたいと思います。

一つ目は、「日々のをいがけ」。「日々」ということです。

二つ目は、「積極的なおたすけ」。

三つ目は、「ぢばの理を戴く」。

この三つをどうか残りの2年、心に置いてお通り頂きたいと思えます。

### 自分で心定めて動く

おさしづに、

「どうでもこうでも三箇年前からに、をいを掛けて丁度よい。隅から隅まで心置き無うやってくれ。ころつと風を変え、直接やと言うてくれ。早く話して聞かせ」

(明治40年4月7日)

とあります。

このおさしづは、前年に教祖20年祭が終わっています。教祖30年祭に向けてのおさしづであります。

「三箇年前からに、をいを掛けて丁度よい。」と仰っているのですが、その後「隅から隅まで」とあります。これはお道に繋がる全ようぼくが、お道に繋がる皆そういう人たちが何かの動きをする。そういう意味だと思ふのです。

諭達の中に真柱様は「全教の心を一つにしたい」と仰せられています。

やることはそれぞれ立場も違いますし、年齢も違いますし、それぞれで

したいというのは、私もこの動きをさせて頂こう。私の出来る動きはこ

れだと、自分でやっというこうと皆が

そう思ってくれる。こういう意味であります。

あります。

やれることは違います。教会長の立場の者も、まだ若くてようぼくに

成り立ての者も、やれることは違いますが、私もこれなら出来るという

ことを心において欲しい。こういうことが「隅から隅まで」であります。

続いて「心置き無う」とあります。

心置き無うという言葉は、遠慮気兼ねなく、心残りのないように、という

意味であります。ここでは「安心して神様にもたれて」であります。

人間思案ではなく、神様にもたれて

我が事を忘れて、必ず神様が働いて下さる、という安心感をもって、こ

れが「心置き無う」です。

そして「ころつと風を変え」とあります。これは、物事の状態を変える。

形を変えて、いつもとは違う。教祖年祭に向かつて今までとは違うこと

を考えて、違う動きをしてくれ、という意味だと思えます。

「直接やと言うてくれ」。これは、誰かの使いではなく、自分の言葉で、

自分の責任で年祭を迎えて欲しい、という意味だと思えます。

真柱様がこう仰っているから、今

のお道はこう言っているから、ではなく、自分の言葉でこの教をおしえ伝える

のであります。人から言われたから、

こう言うたらええよ、というような言葉を伝えるのではなくて、自分の

信仰を、まだ信仰を知らない人に伝える。こういう意味だと思ふのです。

「早く話して聞かせ」とは、教祖のひながたの道は、どんな道だったのか。何のためであったのか。25年先

の定命を縮めてまでも、私たちに求められたものは何であったのだろうか

かと、自分の言葉でまだこの道を知らない人に伝えてくれ、という意味だと思えます。

どうか皆さん、残り2年間、本島

に繋がる人は皆、「何かの動きをしよう」と神様にもたれて、安心して、

今までとは違うんだという気持ちで、自分の言葉で自分の信仰を、この道

を知らない人に伝える何かの動きをして頂きたいのであります。

それは先ほども言いましたように、皆動きは違っても構いません。しかし、教祖の年祭に向けて、私もこれをしてようと、自分で心定めをして動くのであります。

### 良い匂いとは？

さて、今日の二つ目、「日々のにをいがけ」と言いましたが、匂いというのとはどんなものでしょうか。

「良い匂いやな」というのは、どんな匂いの時に皆さん思うでしょうか。ふと、軽く感じるものであります。なんとなく漂ってくる匂い、これが良い匂いの元だと思っております。どれだけ素晴らしい花の香りでも、きつすぎると良い匂いやなどあんまり感じないものです。

私は本部の青年づとめを終えて、布教に出ている途中、私の父親が私に言いました。「お前な、お話が出るおたすけ先ができたなら、毎日行け。そやけれども、長く話をするな。『こんにちは、お元気ですか』だけ言い」ってこう言うのであります。

また教会の信者さんの所へ訪ねて行っても「元気ですか、お変わりないですか」と言ったらすぐ帰れ」と、

こう言う。「その代わり、しょっちゅう行け。お前はな、お話が出来ると思ったら、懇々と言い過ぎる。もう聞かせて、全部言うて、分かってもらうまで帰らない。そんな覚悟で行ってしまふ。そんなは良い匂いにならない」と言われたことがあります。「毎日来るけれども、『あ、もう帰ってしまふたんかいな』と思ってももうたええ。長居をして、『まだ居るんや』と思われるよりはよっぽどいい。毎日お前の顔を見てたら、だんだんなんとなく慣れてくる。慣れてきたら、話を聞きたいなと思うてもらえる時もある。何かふし、身上や事情にぶち当たったときに、『ああ相談してみようかな』と向こうから言うてくれる日もある。だから毎日行け。その代わり、すぐ帰れ。これが良い匂いや」と、そう言うてくれた日があります。しつこく「まだ分からんか」では、にをいがけにはならないのであります。

おふでさきの中にも、  
にちくくに月日の心をもうにわ  
をくくの人のむねのうちをば

だんくにとにちくく心いさめかけ  
よふきづくめをみなにをしへて

(第10号57)

にちくくにとりつぎの人しいかり  
と心しづめてはやくかゝれよ

(第10号97)

とあります。

毎日の小さな積み重ね、これが大事であります。「今日にはをいがけに行こう」。けれども「今日は今日一回だけ」。これではいけませんね。三年千日、たった三年の間と仰つて下さるから、毎日であります。毎日匂いをかける。しかしその匂いは明るく楽しく勇ませる話であります。

「よふきづくめをみなにをしへて」とあるのですから、陽気な話を伝える。「とりつぎの人しいかり」と仰せられてるのは、ようぼくは皆、親神様・教祖の思いを伝える取次ぎ人です。簡単でかまいません。簡単でふわっとした軽く漂う匂いを、でも日々かけていく。今日の二つ目のお願いは「日々のにをいがけ」であります。論達にも「家庭や職場など身近なところからにをいがけを心掛けよう」とお示し下さっています。ふわっとした、ああ気持ちいいなという匂いをかけて頂きたいのであります。

### おたすけには日々の積み重ね

明治22年4月17日のおさしづに

「皆成程の理が分かれば、どうもならん理が分からねば、どうもならんくくく。をやの話、をやさんの話やと楽しめました。成程の理が分かってても、日目の理が分からにや、何時に何程の井手が崩れるやら、潰れるやらこれ知れん。」

(明治22・4・7)

とあります。

成程の理が分かっているけれども、教祖のお話はこうだ、親神様の思いはこうだというのは分かっているけれども、日々の勤め方が分からなかつたらどうにもならないと仰せられる。いくら難しい教理が分かっているても、天理教がこうだというのが分かっているても、日々の動きがなかつたらどうにもならんと仰せられるのであります。毎日積み重ねて頂きたいのであります。

また、

危ない事、微かな理で救かるは  
日々の理という。(明治26・4・29)

ともあります。

身上や事情で危ないところ、ざりざりおたすけ頂く。これを日々積み

重ねている。この理で危ないところをたすけて頂けるのだと、仰せ頂くのであります。

毎日蒔いている種が、ここ一番の時に花が咲くのであります。ここ一番たすけて頂きたいという時が必ずあります。この三年千日の中に、ここをたすけて頂きたい、この人をたすけて頂きたい、おちばへ連れ帰りたい、というときに働いて下さるのが日々積み重ねる理であります。

ですから今度は積極的におたすけに出て頂きたいのであります。ここ一番のおたすけ、日々理を積み重ねておけば大丈夫であります。

ちよつと前の話であります、私の教会でその日はおつとめ練習の日でありました。皆でおつとめの練習をしておりましたら、もう何年も参拜にも来ない、連絡もつけてくれないうある男性がふと神殿へ入ってききました。パンパンと参拜だけしてまたスーツと出て行きます。「あれっ」と思ったのです。長い間来てなかったなと思って、まだ練習の途中だったのですが、追いかけて行って「大丈夫か」と声を掛けたのであります。その一言で信仰が繋がったのです。教会へ戻って来ました。

話を聞いてみますと、ちよつといろんな家庭の事情でにっちもさっち行かなくなってしまうと、そして最後に何年も通っていなかった教会へいっぺん参拝をして、このまま命を絶とうと思っていた。そこでバツと追いかけて来られて、「大丈夫か」という一言で、これはいっぺん会長さんに話してみようと思ったのと、直視している事情を話してくれるようになりました。ここ一番働いて下さったなあと思えました。

### みかぐらうたのひのきしん

#### 七下り目一ツ

ひとことはなしハひのきしんにはひばかりをかけておくしようか。パツとお歌を聴くと、「一言お話をする、これもひのきしんだよ」という意味に聞こえるのですが、本当はこの七下り目、お歌を進めて行きますと田地のお話であります。

#### 三ツみなせかいのこゝろにハ

でんぢのいらぬものハない  
四ツよきぢがあらバ一れつに

だれもほしいであらうがな  
五ツいづれのかたもおなしこと

わしもあのぢをもとめたい

七ツなんでもでんぢがほしいから  
あたへハなにほどこいるとても  
と、地面、土地、田んぼ、田地のことを仰っているのであります。

この田地とは、種を蒔いて収穫のご守護を得るための土地であります。では私たちお道の者にとって、この田地とはいったい何処なのでしょう。これは私たちが「ご守護という収穫を得るのはおちばであります。おちばで種を蒔き、そこで育てて頂いてご守護頂く。これが私たちの信仰であります。ですから、

#### ひとことはなしハひのきしん

にはひばかりをかけておくとは、これは「一言話するのは、おちばに種を蒔く。そういう話をしてくれ」という意味だと思つたのです。つまり「おちばというところがあるんだよ。ここが故郷で、ここですべて頂けるんだよ」と、そういう一言の話をしてくれ、こういう意味だと思つたのです。

#### 八ツやしきハかみのでんぢやで

まいたるたねハみなはへる  
九ツこゝハこのよのでんぢなら

わしもしつかりたねをまこ  
十ドこのたびいちれつに

ようこそたねをまぎにきた

たねをまいたるそのかたハ  
こえをおかずにつくりとり  
と、七下り目は進んで行くのであります。

田地とはお屋敷のこと、屋敷とはおちばのことです。七下り目は、おちばへの伏せ込み、おちばへ心をつなぐことを仰っている、これが「ひとことはなしハひのきしん」であります。

おちばへ心をつなぐこと、おちばへ伏せ込むことこそが、たすかる元、これをひのきしんと仰るのであります。

#### ひのきしんという言葉はみかぐらうたでは他にも出てきます。

ところがおふでさきには出てこないのですね、不思議と。

#### 三下り目八ツ

やむほどつらいことハない  
わしもこれからひのきしん

これは、「病むほど辛いことではない。身上にお知らせを頂いた。わしもこれからおちばへ行ってたすけて頂こう」これがひのきしんであります。

#### 十一下り目、

二ツふうふそろうてひのきしん  
これがだいゝちものだねや

三ツみれバせかいがだん／＼と

もつこになうてひのきしん  
四ツよくをわすれてひのきしん  
これがだいゝちこえとなる  
七ツなにかめづらしつちもちや  
これがきしんとなるならば  
とあります。

ひのきしんと出てくるのは、七下り目のほかに三下り目と十一下り目に出てきます。この三下り目と十一下り目の始まりは、「ひのもとしよやしき」です。何の事を仰っているのか、おちばのことです。両方とも、ひのきしんと出てくるのは全部おちばに繋がっている。おちばの理を戴く。これでたすけて頂くのであります。

今日三つ目のお願いは「ちばの理を戴く」これでありませう。

元という、ちばというは、世界も一つと無いもの、思えば思いう程深き理。(明治28・10・11)

とお教え頂いております。

おちばは他にはないのです。あのおちばしかない。思えば思うほど深き理。理とは親神様の思いでありませう。たすけてやりたいという親神様の思い、私たちはおちばのことを思えば思うほど、神様は「それならたすけてやりたい」という深い思いが

かかってくる。ご守護頂ける元となるのだという意味だと思っております。

### 残り2年間一手一つに

どうか今日、皆さんにお願いしたいことは、まず「日々のをいがけ」。ふわっとしたものでいい、軽いものでいいから毎日心掛けて匂いをかけようという心であります。

二つ目は「機を逃さないおたすけ」。ここ一番、この人をたすける身上で苦しむ人があったらおさづけをさせてくれと頼む。事情で苦しむ人があれば、どうかお願いごとめでたすけてほしいとお願いさせて頂く。

三つ目は、そのたすけの元であるおちばへしっかりと心をつなぎ、この人をおちばへ何としてでも連れ帰ろうという努力。

どうかこの三つをあと2年、教祖140年祭まで心に置いてお通り頂きたいとお願いをして、今日の話を終えさせて頂きたいと思えます。どうか今日の天気のように爽やかに明るく、そしてお道らしく喜んで、残り2年余りを大教会につ

ながる皆が一手一つになって進んで下さることをお願いいたします。ご清聴ありがとうございます。

(文責・片山幹太)

## 若い人はおちばで伏せ込みの経験を

10月大教会教会長会議

立教186年10月22日

大教会長 片山幹太



本日、宮森与一郎先生よりお話を頂きました「日々のをいがけ」「機を逃さぬおたすけ」「おちばへ」、三つのポイントを教えて頂きました。

特にひのきしんについて、みかぐらうた三下り目、七下り目、十一下り目の思案から、おちばで真実の種を伏せ込むことのでたすけて頂けることを教えて頂きました。これから教祖140年祭に向かって、大教会につながる部内ようぼく隅々までこの三つのポイントを伝えて、一手一つに歩ませて頂きたいと思えます。

とりわけ「おちばへ」について、若い人々におちばがえりして頂き、伏せ込みの経験をしてもらえるよう丹精をお願いします。それが次代に芽吹き、花が咲くことに繋がると思えます。

よろしく申し上げます。

(文責・本島通信編集室)

本部員・本島大教会三代会長 片山俊次 略歴

明治39年1月24日 片山好造・ハルの長男として

本島に生まれる

昭和5年3月 東洋大学印度哲学東洋論理学科

卒業

昭和5年4月10日 片山俊次・コズエ(旧姓長尾)

結婚式



昭和5年6月 河原町大教会青年づとめ

昭和6年3月22日 おさづけの理拝戴

昭和7年5月26日 本部詰員に登用

昭和7年7月6日 教師補命

昭和7年11月4日 渋谷分教会2代会長就任

昭和14年3月2日 渋谷分教会会長辞任

昭和17年1月27日 本島大教会3代会長就任

昭和19年4月26日 香川教区長(昭和26年まで)

昭和27年11月22日 (大教会創立50周年記念祭)

昭和36年11月17日 (大教会創立60周年記念祭)

昭和37年5月18日 (大教会神楽落成奉告祭)

昭和37年12月1日 教会本部管轄課長

昭和38年4月18日 本部准員に登用



昭和40年9月9日 別席取次人に登用

昭和43年11月1日 教会本部常誌

昭和43年12月1日 教会本部管轄部長兼電気課長

昭和43年12月1日 宗教法人天理教責任役員

昭和47年5月21日 (大教会創立70周年記念祭)

昭和50年6月24日 (第46母屋本島詰所第1期工事

竣工)

昭和52年12月1日 天理参考館長

昭和54年11月1日 布留遺跡天理教発掘調査団長

昭和54年11月1日 天理市文化財保護審議会会長

昭和56年3月24日 (第46母屋本島詰所第2期工事

竣工)

昭和57年11月29日 (大教会創立80周年記念祭)

昭和59年4月18日 本部員登用

昭和59年9月26日 本島大教会会長辞任

平成5年8月8日 お出直し(享年88歳)

平成6年6月21日 一年祭(大教会)

平成10年5月21日 五年祭(大教会)

平成15年6月21日 十年祭(大教会)

平成25年10月21日 二十年祭(大教会)

令和5年10月21日 三十年祭(大教会)

本島大教会三代会長夫人 片山コズエ 略歴

明治43年1月9日 長尾幸太郎、ナカの六女として

本島に生まれる

昭和4年1月17日 おさづけの理拝戴

昭和4年2月14日 天理教校別科第41期卒業

昭和5年4月10日 片山俊次と結婚

昭和5年12月20日 教師補命

昭和7年1月1日 長女・基子誕生

昭和8年6月20日 二女・京子誕生

(昭和10年2月3日出直)

昭和13年 長男・俊彦誕生

(昭和13年10月25日出直)

昭和15年1月19日 二男・昇誕生

昭和16年12月14日 三男・勲誕生

昭和20年7月20日 四男・好治誕生

昭和21年8月23日 婦人会本島支部長拜命(本部登録日

昭和22年10月21日 三女・榮誕生

昭和41年5月21日 本島大教会「ろくち会」理事

昭和55年9月25日 婦人会本島支部長辞任

平成13年11月4日 憩の家に入院。脳梗塞と診断される

平成14年11月6日 本島大教会にて療養生活を始める

平成16年7月13日 お出直し(享年95歳)

平成17年5月21日 一年祭(大教会)

平成21年3月23日 五年祭(大教会)

平成25年10月21日 十年祭(大教会)

令和5年10月21日 二十年祭(大教会)



三代会長 片山俊次 三十年祭  
三代会長夫人 片山コズエ 二十年祭  
**祭典役割**

献饌長 西山道教 伝 供 岡崎八十則・永山晴明・雲庵春彦・片山直明・片山和信・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・長瀬充憲・岩橋守行・岩橋秀一・鎌田典夫・宮路和徳・位下道治・肥後章・溝口晋太郎・滑川善久	三代会長 片山俊次 三十年祭 三代会長夫人 片山コズエ 二十年祭	香川勝巳・橋口徹・村田輝夫・屋敷ゲーリー・大矢万三	雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・香川靖幸(順不同)	
	祭主 宮森与一郎先生 指図方 老木邦光	てをどり前半	岡崎マーロン 岩橋竜造	賛者 永島宗行 長尾海和
	地方 片山 勲 井上 哲 岡崎八十則	てをどり後半	窪田 靖明 大上 道徳 片山 和信	
	てをどり 宮森与一郎先生 大教会長 長谷川邦昭 会長夫人 長尾澄子 池田さわみ	齊藤カーレン 吉田晴雄 奥村龍夫 片山孝代 高垣恒子 長尾啓子	平井真治郎 雲庵道延 岩橋慶三 大西知昭 牧野道昭 寺本教生 片山やすゑ 鳥澤むつ代 向所暉美子	向所隆文 篠原丕王 後藤正治 伊東康成 原口実 高垣光治 片山榮 岡崎むつゑ 片山孝子

**祖霊殿之儀祭文**

立教百八十六年十月二十一日

この祖霊殿にお鎮まり下さいます前の本部員天理教本島大教会三代会長片山俊次の霊様、同夫人片山コズエの霊様の前に本部員宮森与一郎慎んで申し上げます憶えば霊様方には親神様の思召しを承けられてこの本島の地でそれぞれ御教への家族に生まれ育ち長じて昭和五年四月十日奇しき縁のもとに夫婦の契りを結ばれその翌日には河原町大教会に夫婦揃って青年づとめを願ひ出られひのきしんに励む中折しも河原町大教会では史料集成部が設立となり大教会史発行にかけられる旬に俊次の霊様には部員の一人として河原町文庫設立委員に任せ二年間に亘って史料蒐集に伏せ込まれました

その後渋谷分教会二代会長に就任され以降七年間を経て昭和十五年本島は越乃国大教会より京城と時を同じくして大教会に分離階級の運びとなり続く昭和十七年一月二十七日三代会長の理のお許しを戴かれました以降四十年余に亘りどこまでも親の理を立てり温かい親心をもって教え子達を慈しみ育てになり名稱の理の栄に懸命に努められました

加えて片山コズエの霊様にはこれより長き歳月を婦人会本島支部長の任に心をくだかれ大教会長の影となり日向となられて道の台としての大役を果たされその間ご夫婦相和して国の内外隔てなく部内巡教に努められことに海外巡教に赴かれては長く途絶えていた教え子との絆を深め一つ心に結び合わせて労わり合い励まし合っておなげがえりでの再会を楽しみとされました

翻って昭和十九年当時の世界大戦の混乱期を片山俊次の霊様は力強い精神力と統率力で国の内外ともに部内教会の復興とよぶべく丹精に奔走される中香川教区初代教区長を拜命されました

時はすなみ教祖六十年祭の旬を迎えるに当たり復元の旬とお声のもとにこそぞって布教活動に励みその真実をおらばへの伏せ込みとされ教祖七十年祭を迎えるに当ってはおやさりとやかたの完成を目指してひのきしん隊の実動に励まれ更にはかねてから片山好造二代会長様の二十年祭と大教会創立六十周年を二代真柱様御構想のもとに神殿移転建築を打ち出し常に世界地図を掲げ世界を見つめられた海外布教に相応しく生まれ故郷

でもある瀬戸の海を一望するこの地に完成の御守護を頂かれました

更に教祖九十年祭を目指して帰参する人達の受け入れには遠く海外からの帰参者のための設備にも心を注いで新たに信者詰所を真柱様のお指図を仰いで完成されました

片山俊次会長の霊様にはおらばの御用にお引き寄せ頂かれ早くには昭和七年本部詰員をはじめ後に別席取り次ぎ人としてのお許しを頂かれ昭和四十三年には本部常誌・宗教法責任役員・教会本部常務部長・天理参考館長・続いて本部員に登用されことに常務部長・天理参考館長の要職ではそれぞれ十年間の勤めの中でその心は常に親神様・教祖・真柱様のお心を念頭に教祖が世界にすけにお働き下さるにふさわしい準備と段取りに意を用いました

ご生涯を「をや一筋」に真実を尽くしておつとめ下さる中にひとときわ霊様が楽しみにされておりましたのは鼓笛隊でありましたお出直し三日前身上の中を車に布団を敷き本島鼓笛隊がごどもおらばがえりの御供演奏に向かうパレードの演奏を聞き後お出直しになられたお姿を今に思い真柱様が論達にお示し下さいます思召を深く心に銘じたいと存じます

お出直しより数えて霊様には三十年コズエの霊様には二十年を数える時となりましたので大教会にては事謀り定めて今日この日に霊様方の御祭りを執り行い有りし日の事どもを語り合い御心をお慰め申し上げたいと存じます

御前には家人を始め国の内外を問わず在りし日の厳しくも慈しみの心でお育て頂きお仕込み下さいました人達が寄り集い更には遙か遠くの地より御厚恩を慕い心を寄せる教え子達が共に伏し拝む状を霊様方には御心うまらにお受け取り下さいまして本島大教会の名稱の理の弥栄えは申すまでもなくすべての部内教会を行先永く御守り頂き教祖百四十年祭に向う大切な今日の旬に当り世界にすけに努め励む部内教会長よぶべく信者大教会在籍者をもお見守り下さいまして一段と成人の道にお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

# 秋季大祭 祭典役割

## 秋季大祭祭文

立教百八十六年十月二十二日

**献饗長** 平井真治郎  
**伝 供** 岡崎八十則・篠原木王・永島宗行・大上道徳・原口実・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・長尾海和・文岡邦人・岩橋守行・長濱充憲・鎌田典夫・宮路和徳

位下道治・肥後章・白垣初生・滑川善久・川村吉夫・溝口晋太郎・屋敷ゲーリー・江草克一・大矢万三

**雅楽奉仕者** 池田恒治・片山秀明・香川真紀・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・香川靖幸・片山幹太郎(順不同)

祭主 指方	大教会長	座りづとめ	大西 知	てをどり前平	向所隆文
	岡崎マローン		岩橋竜造		片山和信
	鷹者		賛者		
地 方	老木邦光	てをどり	原口 実	てをどり後平	大上道徳
	西山道教		後藤正治		文岡邦人
	窪田靖明		高垣光治		肥後 章
てをどり	大教会長	てをどり	平井真治郎	てをどり	奥村龍夫
	片山 勲		永島宗行		長濱充憲
	寺本教生		片山直明		大矢万三
てをどり	会長夫人	てをどり	鳥澤むつ代	てをどり	伊東晴美
	前 会 長		長尾啓子		高垣洋子
	片山やすゑ		雲庵まち子		梅木澄代
ちやんぼん	岡崎八十則	てをどり	雲庵春彦	てをどり	横山富明
	長谷川邦昭		雲庵道延		吉田知彦
	牧野道昭		茶屋原良昭		岩橋秀一
拍子木	井上 哲	てをどり	吉田晴雄	てをどり	橋口 徹
	岩橋慶三		永山晴明		大西 剛
	大西 知		伊東康成		宮路和徳
すりがね	長尾澄子	てをどり	向所暉美子	てをどり	ソノ・リン
	片山 榮		片山孝代		佐藤道子
	池田さわみ		原口和子		菅岡和美
三味線	池田さわみ	てをどり	原口和子	てをどり	菅岡和美
	片山 榮		片山孝代		佐藤道子
	池田さわみ		原口和子		菅岡和美
胡弓	池田さわみ	てをどり	原口和子	てをどり	菅岡和美
	片山 榮		片山孝代		佐藤道子
	池田さわみ		原口和子		菅岡和美
神殿講話	世話人 宮森与一郎先生				

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつの陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下さり天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に教祖をやしるによろづ委細の元の理を明かし世界たすけの真実の御教えをお啓き下さいました

爾来長の道すがらも常に温かい親心をもってお連れ通り下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は届かぬながらも御存命でお働き下さいます教祖のお導きを頂いてたすけ一条の御用に励ませて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は立教の元一日にゆかりある日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに揃え座りづとめををどりを陽気に勇んで勤めさせていただきます

御前には国の内外から大勢の教え子達が帰り集い共におうたを唱和して日頃の御厚恩に真心を込めて御礼申し上げる真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚昨日は本部員・大教会世話人宮森与一郎先生の祭主のもと三代会長片山俊次御夫妻の年祭をお勤め頂き続いて本日は秋季大祭の御巡教を賜り教祖百四十年祭への二年目に向かう私共に時旬の思召しをお聞かせ下さいますので一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚の

もとにぢばの理を頂戴して成人の足取りを進めさせて頂きたいと存じます

又おぢばでは二十六日に秋季大祭が勤められますがこの旬に一人でも多く親元に帰らせて頂き併せて二十四日にはふせ込みひのきしんとして大裏地区で稲刈りをさせて頂き二十五日には詰所におきまして「よふぼく研修会」を開催させていただきます

更に二十九日には全国の支部を会場に「よふぼく一斉活動日」が開催され同じ地域に住むよふぼくが共に勇ませ合い励まし合って更なる教えの実践に努めさせて頂く所存でございます

何卒至らぬ所は幾重にもお仕込み下さいます陽気ぐらし世界実現に向けて一層の伸展と一人ひとりの成人を圖らせて頂きますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

### 入社祭

(立教186年10月22日)

▼栄森峰△西森陽平△西森幹由 ▼マウイ△Shaun Shiraki ▼ポートル  
 ンド△Wren Solbach (計4名)

---

10月22日(日)  
 【香川県丸亀市】

天 候 晴

最低気温 11.3℃

最高気温 21.8℃

平均気圧 1021.9 hPa

平均湿度 57%

平均風速 1.9 m/s

日照時間 10.7 時間

降水量 0.0 mm

## 本京分教会 創立100周年記念祭ならびに神殿落成奉告祭

本京分教会(牧野道昭会長・

東京都練馬区)では、去る立教185年4月26日のお運びで神殿及附属建物修築願の理のお許しを戴き、神殿ふしんを行ってききましたが、このたび予定通り竣工し、続いて立教186年9月25日のお運びで臨時祭典願のお許しを戴きましたので、10月14日午前11時より大教会長夫妻を迎え、創立100周年記念祭ならびに神殿落成奉告祭を執り行いました。参拝者約80名。



本京分教会は大正13年2月

13日に大久保荒吉を担任として設立し、その後昭和7年5

月12日に現在地の移転鎮座奉告祭が執り行われました。以来約90年を経たことから神殿建物の老朽化が進み、雨漏りするなどの被害が出てきました。このままでは親神様・教祖の御目標・祖霊様に不敬にいたる恐れがあったことから、部内教会長や役員らは話し合いを重ね、神殿ふしんの話がまとまりました。

ふしんには、練馬区条例や東京都建築安全条例等により建築基準に厳しい規制や制約がかけられており、関係者一同苦心を重ねながら、老朽化した神殿を取壊し、新たに木造ガルバニウム鋼板葺平家建の神殿一棟(床面積95・64㎡)ならびに神饌場一棟(床面積16・56㎡)を建築するに至りました。

10月14日の奉生祭は暖かい秋晴れの恵みを頂く中、挨拶

に立った大教会長は、まず旧

神殿時代は毎年、会長や家族が建物保護のため屋根に上がりコーキングを塗る作業を行わなければならないところ、新神殿では屋根に上がる必要がなくなり、心配事が一つ減らせたことを喜び、続いて条例により厳しいふしんとなったことも、「苦心ということでは、百年前と変わらなかつたのではないか」と関係者を労った上で、「親神様は私たちに、大難は小難、小難は無難となるようお働きくださっています。大難が小難になるのは分かりやすいですが、小難が無難になるのは気づきにくいものです。でも親神様は目に見えにくい小難を無難にたくさんご守護くださっていることを思い、時あたかも百周年は白紙に戻り一より始める旬と受け止め、教祖140年祭を次の目標に、周囲へのおたすけ、にをいがけに勤めさせて頂きましょう」と述べられました。

続いておつとめが陽気に勤

められました。

なお奉告祭に先立ち、前日の午後6時より鎮座祭を執り行い、客間の仮神床に御遷座していた親神様・教祖の御目標並びに祖霊様を、新神殿の神床へつがなくご鎮座いただきました。

### 雅楽講習会と年祭準備

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、10月8日と9日、本島詰所において秋季雅楽講習会を実施。9名が参加しました。初心者も平調、経験者は太食調の習得に励みました。

続いて10月14日と15日は、大教会にて、一週間後にひかえた大教会3代会長夫妻年祭ならびに秋季大祭を目指して準備ひのきし



### 訃報

本大和分教会長

浦底サチ工姉



浦底サチ工姉(本大和分教会3代会長)は去る10月14日午前6時、お出直しになりました。享年100歳。葬儀は10月15日と16日に北九州市内の葬祭場において家族葬で営まれました。

浦底サチ工姉略歴 大正11年10月28日生まれ。昭和29年4月24日、おさづけの理拝戴。昭和32年6月27日、修養科第192期修了。昭和43年3月17日、教会長資格検定合格。同年5月4日、教人登録。同年9月27日、本大和分教会3代会長拜命。教会長在職期間55年間を実施。15名が参加しました。境内地の草刈りと草集め、直会準備、名称旗台設置、教会提灯設置などを行いました。

# おおうら 大裏地区稲刈りひのきしん

ご本部の献饌物や御供米に使われる米を育てている大裏地区(天理市豊田町)の圃場はしやうにおいて、10月24日午前9時より稲刈りひのきしんを実施。海外帰参者を含め55名が汗を流しました。

初めに大教会長よりあいさつがあり、続いて管財二課大裏農事係の森本孝一氏より稲刈りの方法や注意事項について説明が行われました。

場所は今年の6月24日に田植えを行った同じ圃場で、約2反のうち2割ほど刈り取られていました。



稲刈りは、まず右手に鋸鎌のこぎりがまを持ち、稲株を左手で握って、田面に近い位置を順次刈り取りながら移動します。3株ほどで左手がいつぱいになると地面に置きます。これを「一手刈り」といい、もう1回分と合わせて「二手刈り」で「一把」としたものを藁で束ね、稲架はさぎに掛ける作業を行いました。

一把を藁で束ねる方法は、説明を聞いて頭で理解したようでも実際に行うとなかなか難しく、身体が覚えることでどんどん作業効率が向上しました。

また稲架に掛ける作業は、一把を左右7対3で割ったものを交互に掛けることで、風通しが良くなることで、ひのきしん者は声を掛けあい、確かめながら作業を進めました。

管財二課の方に尋ねたところ、稲架に掛けた稲は今後2週間程度、天日(太陽光線)と風によって乾燥させて後、脱穀することでした。それ

# ようぼく研修会

大教会布教部(平井真治郎部長)では、ようぼくのいのいがけ活動に資するための「ようぼく研修会」を10月25日午後6時30分より、詰所4階講堂にて開催。90名が受講しました。



は刈り取ってすぐの粉こなの水分は20〜25%で、このままでは水分が多すぎてお米が変質するので、15%くらいになるまで乾燥させること。また乾燥によって固くなり、糊もち摺りのときに砕けにくくなるというメリットもあるとのこと。当日は雲一つない快晴のご守護を頂き、約2時間ですべての作業が終了しました。またこの日が大裏地区最後の稲刈りとなりました。来年6月、再び田植えひのきしんをさせて頂きます。

講師に金山元春先生(天理大学教授、淀分教会教人)をお招きし、「人と関わる知恵」と題して90分間の講義が行われました。金山先生は、人間関係とは人と人との相互作用であるとし、心理学の知見から、悪い人間関係を変えていくために「こちらが『もの見方』を変えてコミュニケーションを工夫する」方法を提案されました。例えば間違った行為をした相手に注意するとき、「あなた」が主語となるユーメッセージで話しかけると相手の反発を招きやすい。一方で、「私」が主語となるアイメッセージで話すと相手が受け入れてくれることが多くなる。アイメッセージとは①状況を非難がましくなく明らかにする。②自分の気持ちを伝える。③選択させるように提案する。との話の展開を指す。さらに心がモヤモヤするとき、信仰者である私たちは「神様が見て下さっている」との視点を持つことができる。



また、相手を「ほめる」ことは、ユーメッセージであり、背景に上限関係を暗示させるので、人間関係を良くすることもあれば、悪くすることもあるので注意が必要。一方で、「勇気づける」ことはアイメッセージなので有効である。例えば「ありがとう」「うれしい」「たすかった」などの言葉で、これを心から思い伝えることで人間関係が良くなっていく。等々、参加者からの質疑を通して話の内容を深められました。研修会では先生の新刊書「人と関わる知恵」の出張販売ならびにサイン会も行われました。

### 修養科男子教養掛

【本島詰所】

修養科男子教養掛は来年(立教 187年)より、下記の通り10ブロックに分け、約1ヶ月交替でお勤め頂くことになりました。各ブロックごと話し合いの上、お勤め下さるようお願いいたします。

#### ブロック割り振り(直轄教会)

- ①ブロック3名: 赤峰
- ②ブロック1名: 本九
- ③ブロック1名: 本攝
- ④ブロック1名: 本浜
- ⑤ブロック1名: 本京
- ⑥ブロック1名: 渋谷
- ⑦ブロック1名: 安藝本中・本府中・本中國・本福・沖浦・馬木尾・本豊後・本新田・本九台・本肥
- ⑧ブロック1名: 琴浦・本承徳・撫川・本岡・本宮濱・樺太・本樺・本室
- ⑨ブロック1名: 本邦・本篠・本柳・本海・仁徳・張家口・同朋・那波・本岡崎
- ⑩ブロック1名: 阿波本徳・本阿波・本高・与島・崇徳・本清水・本亀・本廣・本勇・本宣道・本山海

※下線の教会長は、取りまとめ担当者

#### 立教187年担当月

- 1月(12/24～1/27) ⑩ブロック
  - 2月(1/24～2/27) ⑨ブロック
  - 3月(2/24～3/27) ②ブロック
  - 4月(3/24～4/27) ①ブロック
  - 5月(4/24～5/27) ⑤ブロック
  - 6月(5/24～6/27) ③ブロック
  - 7月(6/24～7/27) ①ブロック
  - 8月(7/24～8/27) ⑧ブロック
  - 9月(8/24～9/27) ⑥ブロック
  - 10月(9/24～10/27) ①ブロック
  - 11月(10/24～11/27) ④ブロック
  - 12月(11/24～12/27) ⑦ブロック
- 尚、個別のご相談については、本島詰所(老本邦光主任・平井真治郎副主任)までお願いします。

が9月30日に行われました。

**慶事**  
 新谷昌佳 氏(實峰)  
 分教会よ  
 う(ぼく)と江草紗和さん(實峰分教会長子弟)の結婚式



**をびや許し**  
 雅峰 落合光子 (立教186年10月27日修了) 【計1名】

**証拠守り下附**  
 安藝本中 池田ゆりえ (立教186年9月分) 【計1名】

**赤峰2**  
 (立教186年9月分) 【計2名】

**事情はいび**  
 立教186年10月、本島関係のお運びはありませんでした。

**修養科第986期修了**

**大教会長動向**

▼11月(予定)▲

2日、香川教区役職者会議  
 12日、本新田分教会  
 会長就任奉告祭

19日、ようぼく講習会出向  
 22日、大教会月次祭執行  
 24日、修養科総立まなび  
 25日、かなめ会委員会  
 26日、本部月次祭参拝  
 27日、かなめ会  
 28日、新任教会長の集い  
 29日、お戻し教会(海外)本部  
 教祖殿へ  
 30日、神殿奉仕当番

以上

### 布教部報告(10月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいかけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

にをいかけ名簿提出教会(10月)			おさづけ取次報告教会(10月)		
樺太9	本攝3	豪峰10	本島9	本吹田4	豪峰9
本倉岡10	攝肥1	倉峰9	樺太9	攝肥1	倉峰10
本樺10	攝滋1	雄福峰4	本倉岡10	攝滋1	栄峰2
本室10	本太4	雄山峰7	本樺10	フィリピン1	大雄峰5
本都10	本萩4	栄森峰8	本室10	本萩6	雄福峰4
本京10	本府中10	栄東峰10	本都4	本水島10	雄山峰4
本東2	沖浦5	霊峰10	本京10	安藝本中5	栄森峰4
本道盛1	本亀1	實峰9	本東2	本備前10	栄東峰4
本草2	崇徳10	大松峰2	本道盛5	本迪5	霊峰10
本恵7	本高1	大駿峰4	本草2	本府中10	實峰6
本恵明7	本宣道9	大英峰5	本三6	沖浦5	大隅聖峰3
本静濱5	本九3	文峰6	本恵7	本亀1	大松峰2
本日米7	本陽山9	肥後峰6	本恵山6	崇徳10	大駿峰7
本浜3	本千嘉2	銀峰6	本恵明7	本勇6	吉松峰1
本米6	本新田9	新信峰2	本静濱5	本高1	大英峰4
本米里5	赤峰10	都峰6	本日米5	本宣道3	肥後八峰6
本千代10	雅峰8	仙峰10	本浜7	阿波本徳2	銀峰6
本千賀6	南峰5		本米6	本九2	新信峰3
本千治6	神峰5		本米里5	本陽山9	鶴峰7
			本米浜6	本千嘉1	都峰4
			本千代10	本新田6	仙峰10
			本千賀4	本九台3	マリーナ2
			本千治4	赤峰10	サガバワック5
			本攝6	雅峰8	ハリウッド5
			本攝津8	神峰1	
計55教会 466名			計74教会 1,955回		



### 教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 11月26日月次祭登殿参列者(教会名)  
琴浦・渋谷・代々木・本米・本高・本柳・攝肥・本九・本府中・栄峰・文峰・那波・本姫路・國船(順不同)
- ※ 車椅子が必要な教会、登殿月の変更希望等は早めにお知らせ下さい。
- 登殿参列の流れ

  1. 詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合。諸説明後、バスにて出発。
  2. 西境内地の登殿受付建物より入場
  3. 直属ごと神殿へ参進(西廻廊を経由し、西礼拝場より登殿)
  4. 神殿結界内にて着席
  5. 神殿講話終了後、教祖殿へ参進(徒歩は東廻廊。車椅子は西廻廊)
  6. 教祖殿御用場にて教祖ならびに祖霊様礼拝
  7. 内統領または表統領よりごあいさつ
  8. 登殿受付建物へ移動、詰所へ戻り写真の間にて解散

- ※ 教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください
- 該当月に登殿参列が出来ない場合は、一覧を本島詰所に掲示しておりますので、各自で交代の話し合いを行い、決まった後は必ず登殿参列係へお知らせ下さい。
- 登殿参列係：平井真治郎役員

### 立教187年心定め提出

【総務部】

- 「立教187年心定め」は、11月26日までに、直轄教会ごと所定の用紙にて、大教会長へご提出ください。

### 立教187年大教会巡教

【総務部】

- 直轄教会は所定の用紙に記入の上、11月22日まで、総務部(牧野道昭・井上哲・原口実)へご提出下さい。

### 第97回天理教青年会総会

【青年会本部】

- 日時：11月25日(土)午前11時
- 会場：本部中庭
- 本島分会は、午前9時30分写真の間集合。後夜祭終了後解散
- 参加費：500円

### 宮森先生おてなおい

【おつとめ修練部】

- 日時：11月25日(土)午後3時より
- 会場：本島詰所
- ※ 急きょ変更になる場合もあります。

### 学生担当者大会

【学生担当委員会】

- 日時：11月25日(土)午後3時
- 会場：本部第二食堂

### みちのだいおはなし会



【婦人会本部】

- 日時：11月26日(日)午後1時～2時
- 会場：東講堂
- 講師：旭和世先生(御空委員部長)  
平井直子先生(泉道委員部長)
- ※ 男性も聴講可。託児はありません。

### 大教会月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：11月22日大教会月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝までにライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：11月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。申込み後、自動返信メールが送られます。届かない場合は各自の迷惑メールフォルダをご確認ください。
- 12月22日のライブ中継はございません。



### 11月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・炊事ひのきしん〉
- 期間：11月21日～22日
- 派遣教会：本攝
- 〈詰所・食堂ひのきしん〉
- 期間：11月25日～26日
- 派遣教会：本九②

### 布教の家入寮者募集

【布教部】

- 期間：3月29日「入寮研修会」から、翌年3月27日「卒寮の集い」まで
- 資格：①所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人。②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことができること。③既婚、未婚は問わないが、単身での入寮に限る。
- 願書受付：1月25日午前9時から2月25日午後4時まで、布教一課へ持参。※ 郵送での提出はできません。各寮(教務支庁)では受付できません。
- 詳細については、布教一課(電話0743-63-2243直通)へお問い合わせ下さい

### 会計部より

【会計部】

- 立教187年お鏡料・御神酒料は一教会2,000円以上です。本年12月22日までに、大教会会計部へお納め下さい。

<https://www.honjima.com/>

### 統計 (9月1日～30日)

教会名	初席	中席	雲子座	修養料	教人講習	検定講習
本島		1				
本千代	2					
本廣		1				
赤峰	1	2				
別峰	1					
合計	4	4	0	0	0	0